令和６年度
主催研修事業報告書

大津市立 葛川少年自然の家

主催研修事業報告書目次

はじめに		P2
小中学校対象事業	ふるさと体験学習、森林環境学習「やまのこ」事業	P3～4
小中学生対象事業	葛川自然学校～夏編～	P5～6
	葛川自然学校～秋編～	P7~8
	ちっちゃい秋探検隊	P 9
	北風わんぱくキャンプ	P10
家族対象事業	日帰りファミリーサマーキャンプ	P11
	ファミリー防災キャンプ	P12
	ファミリーウィンターキャンプ	P13
市民対象事業	わくわくホリデー（草木染め）	P14
	わくわくホリデー（杉アロマ）	P15
指導者対象事業	自然の家ボランティア研修会	P16
	カウンセラー研修会	P17
	教職員研修	P18
その他の事業	職員研修	P1 9

はじめに

葛川の豊かな自然は、訪れる人々にいつも貴重な体験、感動を与えてくれます。「日常では味わえない自然とのふれあい」「人と人との関わり」などの経験は、自然の家を訪れた皆さんにとっていつまでも心に残る思い出となっていることでしょう。今年度開所３７年目を迎え、世代を超えた共通の話題となる「ふるさと体験学習」、「森林環境学習「やまのこ」事業」をはじめ、「主催研修事業」はすべて安全に実施でき、充実した内容で終了することができました。

森林環境学習「やまのこ」事業においては全て宿泊で実施、ふるさと体験学習においては一部大規模校を除いて宿泊で実施しました。限られた時間の中で、子どもたちの活動が充実するよう様々な工夫をしながら各事業に取り組んできました。事前の打合せを十分に行い安全安心な活動ができるよう、また各学校の教育課程に基づいたねらいや目的が達成され、その後の教育活動に生かしてもらえるよう心がけてきました。豊かな自然環境の中での宿泊を通しての自然体験活動は、子どもたちの興味関心を喚起し、「自立」や失敗体験も成功体験も一緒に共有し、また喜んだり悔しがったりする経験を通して育まれる「基本的自尊感情」を育んでくれました。

主催研修事業の「ファミリー事業」では、たくさんの応募があり、参加者には葛川の豊かな自然の中での活動プログラムを通じて家族の絆をさらに深めていただき、家族同士の交流も深めてもらうことができました。特に、昨年度雪不足で中止となった「ファミリーウィンターキャンプ」は、今年度も積雪がなかったもののクラフト中心のプログラムを行い、家族で一泊二日を楽しんでいただきました。

また、「葛川自然学校（夏編・秋編）」「北風わんぱくキャンプ」では、キャンプカウンセラーの活躍もあり、充実した時間、感動を味わってもらうことができました。葛川でしかできない貴重な体験、経験を通じて、子どもたちの「生きる力」の育成につながったのではないかと思います。

事後のアンケートでは、いずれの事業も満足したという声を聞かせていただきました。これも、参加者が安全に安心して自然体験活動を行えたことが結果につながったものと考えております。

今後も、参加者の安全安心を守りつつ、満足してもらえる自然体験活動を提供し続けることが、本所の大きな使命であると考えております。さらに、より安全安心を追究し、充実したプログラムの改訂や開発、施設の管理・運営、改修に取り組んでいきたいと思います。それぞれの職員が、それぞれの業務に責任をもって取り組み、課題の共有、解決方法の模索を繰り返し、協働的かつ計画的に取り組んでまいります。

最後に、事業を進めるにあたりまして、地域関係者をはじめ講師やボランティアの皆様、キャンプカウンセラーの皆さんからご支援ご協力を賜ったことに深く感謝を申し上げます。

所員一同が今年度の事業を振り返りながら、令和６年度の実施報告書をまとめました。報告書をご一読いただき、本所の取り組みにご理解賜りますと共に、今後も子どもたちの自然体験学習の充実のために広くご活用ください。また、本所で行う自然体験活動の様々な事業に対し、ご協力いただきますことをお願いしまして、はじめの挨拶といたします。

令和７年(2025 年) ３月

大津市立葛川少年自然の家　所長　田中　義也

ふるさと体験学習、森林環境学習「やまのこ」事業

趣旨

＜ふるさと体験学習＞

自然を愛し、美しいものに感動する豊かな心を持ち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深めるとともに、葛川少年自然の家における集団宿泊体験を通して、生徒の仲間づくりと集団生活のあり方を学ばせ、心豊かでたくましい人間性の育成をめざす。また、体験活動を通して、大津のめざすこども像である、「新しい価値と可能性を追求する大津の教育　～多様性を尊重し自立する人～」の育成を図る。

＜森林環境学習「やまのこ」＞

滋賀県の補助をうけて実施する森林環境学習「やまのこ」事業は、学校教育の一環として、森林をはじめとする環境に理解を深めるとともに、人と豊かに関わる力をはぐくむことをねらいとする。

また、この体験活動を通して、大津のめざすこども像である、「夢と志をもち、変容する時代の中で、心豊かにたくましく生きるこども」の育成を図る。自然を愛し、美しいものに感動する豊かな心を持ち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深めるとともに、葛川少年自然の家における集団宿泊体験を通して、児童の仲間づくりと集団生活のあり方を学ばせ、心豊かでたくましい人間性の育成をめざす。

実施日

令和６年４月１日(月)～令和７年３月３１日(月)　小学４年生・中学１年生　(一部日帰り)

対象および参加者数

大津市内小学校　４年生　４０校　3,１０３名、大津市立中学校　１年生　１８校　　２、８５７名

実施状況

１学期　小学校　　5校（　　３９０名）中学校　１６校（　２、６１７名）
２学期　小学校　３１校（2、４１３名）中学校　　2校（　　２４０名）
３学期　小学校　　4校（　　３００名）

成果と課題

〈ふるさと体験学習〉

ふるさと体験学習では、学校独自のねらいに応じて実施されており、「仲間づくり」「防災学習」など、はっきりとねらいを定めてのぞんだ学校が多かった。１学期実施の中学校は入学後間もない時期の入所になるため、「仲間づくり」や「集団づくり」をねらいとする学校が多数見られた。また、２学期入所の学校は「防災学習」を取り入れていた。各学校のねらいや目的、規模に応じて、学年レクリエーションやウォークラリーはもとより野外炊事や防災プログラムを実施する学校があった。

特に「防災プログラム」の「土のう積み体験」は、防災の意識を取り入れた活動になるため、学校で事前学習や事後学習にも反映でき、地域を交えて取り組んでいる学校もあった。限られた時間内で「話し合う」「考える」「行動する」「工夫する」等の過程を各クラスが意見を出し合い、協力して実施することが、より深い学習へとつながった。また実際にテントを立てるというプログラムを実施され、生徒同士での助け合いや教え合いの場面があり、好評であった。災害や避難を想定し、自分たちができることは何かを考えるきっかけになったようだった。

命の学習では、生きた魚を自分の手でつかみ、竹串で刺し、さっきまで生きていた魚を焼いて食べるという、そのことすべてが生徒の「心」の中に強く響いているように感じた。葛川での学習や体験活動を通して、「命の大切さ」や「尊さ」に触れ、自分の気持ちに気づき、他人の気持ちに寄り添える人になってほしいと思う。また、それぞれの感じ方で「人として、何が大切か」を考えるきっかけにしてほしい。

〈森林環境学習「やまのこ」〉

本所での活動プログラムは、各校のカリキュラムの中に位置づけられている。森林環境学習「やまのこ」の側面と、ふるさと体験学習の側面があり、そのどちらも重なる部分は大きいと言える。ただ自然体験活動をするだけでなく、ねらいをもって入所してもらうよう努めた。また、１泊２日のさまざまな活動の中で、子どもたちがふだんの学校生活にも経験したことを生かせるよう、子どもたちの様子を見取り、学校の先生方に伝えて子どもたちに返していってもらえるよう心掛けた。例えば、焼杉を自分たちで焼く活動では、火を扱う際のきまりや火の危険性などを体験しながら学ばせることができ、サーチ・ザ・ツリーではどうすれば班活動がうまくいくのかを考えさせることで、その後の学校生活にも生かしてもらうことができた。

２校合同入所は昨年度と同様だった。人とのかかわりが限定的になる小規模校ではたいへん有意義な取り組みである。また、引率教員の人数も増えるため、安全面でもメリットがあると言える。令和７年度は２校合同入所が２組となったが、学校規模に応じて合同入所を促していきたい。

課題は事前事後学習の機会均等である。やまのこ専任指導員が２名配置されているが、入所の多い２学期は対応が困難になるため、事前も事後学習とも訪問することが難しかった。１学期と３学期の学校は、事前事後のどちらかで訪問し、４０校のうち１０校、約２５％の学校には訪問した。事前学習動画をiPadで視聴できるようにした。今後も自然の家での体験活動を意義あるもの、価値あるものになるよう改善していきたい。

小学校でも１人１台端末が当たり前になり、子どもたちは欲しい情報をすぐ手に入るようになってきている。しかし、直接体験することでより理解が深まったり、実際に体験することで新たな気づきがあったりする。来年度も、子どもたちが感動をもって体験活動をできるよう、支援していきたい。

（中学校）教科で学ぶ

（中学校）土のう積み体験

（中学校）空き缶カレー

（小学校）命の学習

（小学校）草木染

（小学校）所内散策

葛川自然学校～夏編～

趣旨

葛川の大自然を思う存分味わう活動を通して、命の大切さ、自然の美しさを感じ、ふるさと大津を愛する気持ちを育む。異年齢集団の交流を通して、協調性、自発性を養う。

実施日

令和６年８月３日(土)

募集対象

大津市内在住の小学５年生～中学３年生

応募状況および参加者数

応募者数　２２名　　参加者数　２０名

プログラム

6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
８月３日		バス乗車受付	仲間づくり開校式		命の学習	昼食	川遊び		振り返り・閉校式	

参加者・保護者の声

（参加者アンケートより）

・私はこういう自然にふれる機会が今までなかったので、今回の活動に参加できてよかったです。一番「命の学習」が印象に残っています。自分で魚を捕まえて竹串をけずって食べるというのが少し心が痛む時もあったけど美味しかったし、楽しかったです。普段、何も考えずに食べている魚もその命を私たちが無駄にしないようにこれからも大切に食べていきたいです。

・新しい友達もできてよかった。また、これに参加したいと思った。川遊びは自然にめちゃくちゃふれて楽しかった。班の子たちと仲良くなれてよかった。最初は不安だったけど、キャンプカウンセラーの人たちのおかげで楽しく過ごせた！

・新しい友達もできてよかった。また、これに参加したいと思った。川遊びは自然にめちゃくちゃふれて楽しかった。班の子たちと仲良くなれてよかった。最初は不安だったけど、キャンプカウンセラーの人たちのおかげで楽しく過ごせた！

（保護者アンケートより）

・魚が苦手で魚つかみはできないと言っていたのに、行きたい！！と言って、それでもおいでと言ってくださる職員さんで居てくださって、当日も川に入れず、いったい何をしに・・・と親ながらに思い申し訳ない気持ちでしたが、帰ってきた娘は楽しかった話ばかり！！職員さん、カウンセラーさん達皆様に感謝感謝です。お世話になりっぱなしでありがとうございました。

・夏の体験をと思い参加させていただきましたが、スタッフの方（お姉さん）とのコミュニケーションがとても印象に残っているようでした。どちらかというと人見知りの性格ですが「私もスタッフとして行きたい」とまで話していました。晴れやかな表情で帰ってきたので、良い経験ができたのだろうと嬉しく思いました。

・子ども一人で野外活動などに参加させることが初めてで、子どもよりも親の方が、ソワソワしていました。そんな親より、子どもの方が緊張することなく参加できて、楽しかった！と話していて、親の後ろに回ってかくれていた小さい頃からしっかり成長したんだなぁとしみじみ思い、参加させて良かったです。
・普段、川遊びなどなかなかできないので流れのある川で遊んだことがとても楽しかったと言っていました。これからも行事に参加したいと言っていたので、楽しみにしています。いろいろあると思いますが、自分がとても素敵な体験をさせたもらった場所なので、子どもたちにもいろいろ体験してほしいです。

成果と課題

３０名程度の募集であったが、当日までにキャンセル等があり２０名の参加者となった。参加人数については、小学５年生以上にしていることや日帰り実施にしていること等、何が影響しているか検証していきたい。キャンプカウンセラーは６名参加で、班付けを２名にし本部をつくるなど急遽、体制を変更した。大学４年生が本部役をしてくれたおかげで、今後の良い見本となったように思う。

夏編のカウ研は実施できたがキャンプカウンセラーの参加が少なく本番に向けて同じメンバーや同じ体制ではいかず、臨機応変に時間の調整をした。概ね時間通りに進められたが、仲間づくりや班内ゲームなどの交流の時間が少なく、親睦を深めるにはもう少し仲間づくりの時間を確保したい。命の学習はみんな思い思いに取り組んでいた。ほとんどの子どもが残さず食べていたのが印象的だった。

午後からの川遊びは、体調や、天気、人数のことなど抑えるポイントを作って説明できていてよかった。また、準備体操も取り入れられたので昨年度の反省をいかせた。悪天候が考えられる雲が出現していたので定刻通り切り上げた。川での様子は、冷たすぎず良い温度感で水に入っている様子は気持ちよさそうだったが、事情で入れない子は日陰で涼んでいた。特に大きな事故やケガや個別の対応もなかったが、看護師さん、保健の先生がいる状態は安心感があった。

葛川自然学校～秋編～

趣旨

葛川の大自然を思う存分味わう活動を通して、命の大切さ、自然の美しさを感じ、ふるさと大津を愛する気持ちを育む。異年齢集団の交流を通して、協調性、自発性を養う。

実施日

令和６年１１月９日(土)～１０日（日）

募集対象

大津市内在住の小学５年生～中学３年生

応募状況および参加者数

応募者数　　１８名　　参加者数　　１３名

プログラム

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
１１月９日			バス乗車受付		仲間づくり開校式		昼食	交流タイム命の学習			オリエンテーション	夕食		キャンプファイヤ	入浴	就寝	

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
１１月１０日	起床	朝の集い	朝食	野外炊事			昼食	ふりかえり	バス乗車閉校式	解散							

参加者・保護者の声

（参加者アンケートより）

・２日間を通して、やっぱり命について考えさせられました。４年生の時にも１度、命の学習をしたことがあったけど、あまごを串にさしてからバケツに入れても懸命に生きる姿を見て、ちょっと悲しい気持ちになったけど、私が生きるためには必要なことで、いつも誰かがやってると思ったら、私はいろいろな面でまだまだだな～と思いました。
・はじめ駅に集合したばっかりの頃は、このイベントで仲間とうまくやっていけるのか不安だったけど、活動①の「仲間づくり」でみんながフレンドリーに接してくれたおかげで、緊張せずに話し合えることができた。
・野外炊事では、今までキャンプはおろか、料理の手伝いすらしたことがなかったから少し苦戦することもあったけど、未知の体験だったからか、そんな苦戦も忘れてしまうほど楽しく、みんなと協力してご飯を作ることができた。この２日間は、とても心に残るイベントとなった。

（保護者アンケートより）

・参加させて良かったと思います。行く前は、本人は不安そうでしたが、帰ってきてからの第一声は「楽しかった！！」でした。キャンプカウンセラーさんも皆、優しくいい思い出になったようです。ありがとうございました。

・今回の参加者が少なかったようで逆にレアな体験ができたなと思っています。野外炊事がとても楽しかったようで「カレーおかわりした！」と楽しそうに言っていました。これからも親ではできない体験をたくさんしてほしいと思っています。楽しいことだけではなく、大変なことやつらいことなども経験してほしいです。皆様ありがとうございました。これからもよろしくお願いします。カウンセラー会を応援しています。残してほしいです。

成果と課題

募集定員に達することなく、応募者が少なくなった。今回の自然学校は秋編として行い、キャンプカウンセラーが８名参加でき、班付け２名と本部をつくることができた。

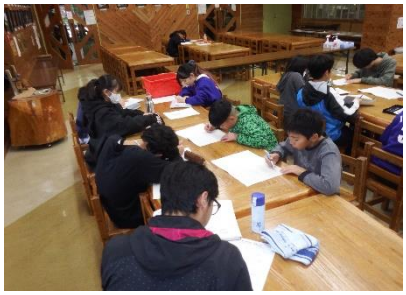
応募者数が少なかった要因として考えられることは、小学５年生以上の対象にしたことや、１１月の時期であること（習い事や大会等によって参加できるかが変わる、修学旅行との兼ね合い）、土日開催（月曜日から通常の学校、土日の前後に予定がある）、体調不良（今年度はマイコプラズマ肺炎、インフルエンザで欠席）、堅田駅までの保護者の送迎などが考えられる。また、デメリットとしては、１１月の開催で土日の前後には学校の入所があるため、所員の週休を土日にする必要があった。そのため、所員が少なく最小限での体制になってしまうことがあった。

この時期に行うことのメリットとしては、大学４年生のキャンプカウンセラーの進路先が決まっており、キャンプカウンセラーの参加が多かったことや、結果的に参加者は少なかったが班付けにとっては余裕を持って対応できた。また、班の活動や全体の活動でも全員の本名とキャンプネームを覚えられるぐらいの数だったため、きめ細かな対応が行えた。

キャンプカウンセラーによる仲間づくりや全体ゲームは盛り上がり、異学年の交流が深まったおかげでその後の活動がスムーズになったように感じる。命の学習に関しては、それぞれの学年で年代に相応しい感想が聞け、より深い学びになったのが良かった。

キャンプファイヤーを初めて体験する子どもが多かったようだが、キャンプカウンセラーが企画したゲームが子どもたちには好評だった。その後の星空観察では、望遠鏡を使って、月の観察を行った。初めて月の表面のクレーターを見たときの第一声が、「わあ、すごい！！」と子どもの心から感動している声が聞けたのが、印象的であった。

一部約束事を守ることができず、キャンプカウンセラーからの指導があったが、そのことでみんなの気持ちが一体となり、正しい判断で行動できるようになっていった。特に野外炊事では、子どもが火を扱う活動であったため、火の扱いや、注意事項の周知を徹底することで、班活動を超えてワンチームのような一体感が生まれ、参加者が他の班のことまで気遣い、助け合える姿が見られた。看護師は１名配置し、参加者の健康や安全に配慮し、キャンプカウンセラーと所員、看護師と様々な角度で支援できた。



ちっちゃい秋探検隊

趣旨

秋の自然に親しみながら、自然の美しさに感動する心を養うとともに、仲間との交流を深めることを目的とする。

実施日

令和６年１１月２３日(土)

募集対象

大津市内在住・在学小学１年生～３年生

応募状況および参加者数

応募者数　４２名　　参加者数　４２名

プログラム

	10	11	12	13	14	15
１１月２３日		開講式	焼きいも作り	ゲームで仲良しになろう	焼き芋を食べよう 昼食	森の恵みクラフト	アンケート	閉講式

参加者の声

・焼きいも美味しかったです！家族だけではできない考えられないことを色々と体験ができて、学びになりました。屋外での探検はできませんでしたが、工作の楽しさも家族で体験でき、とても思い出になりました。お世話になりありがとうございました。また参加したいです。

・職員、ボランティア、カウンセラーの皆さんにとても親切にしていただきありがとうございました。火の管理もお願いさせていただくことができたので、安心して子どもと行動できて良い思い出づくりができました。焼きいもがこんなに甘くておいしいとは知らず感動しました。とても貴重な経験を親子でできました。

成果と課題

昨年度は、小学１～３年生の子どもだけを募集して１泊２日で実施していたが、今年度は小学１～３年生を含む家族を対象に行った。

焼きいもづくりは、２家族が１組となり一つのかまど囲み、家族同士で交流しながら活動する姿が見られた。焼きいもを焼いている間、子ども同士の交流もかねてサーチ・ザ・ツリーを行った。途中で雨が降ってきたが、子どもたちは班で仲良く、楽しんで取り組んでいた。昼からは葛川探検だったが、雨が降り出したため、「森の恵みクラフト」に切り替えた。参加者は子どもも大人もそれぞれに楽しんで制作していた。特に子どもたちは、大人の分の杉板をもらって２枚使うなど、発想力豊かな作品ができあがった。

結果的に１日を通してゆったり過ごしてもらうことができた。また、地域ボランティアやキャンプカウンセラーの手助けもあり、安全に活動することができた。子どもだけでの参加もニーズがあることをふまえ、今後の主催事業を検討していきたい。

北風わんぱくキャンプ

主旨

冬期の自然の中でのあそびを通して感性や創造力の豊かな子どもを育てるとともに、異年齢集団の交流を通して、協調性、自発性を養う。

実施日

令和７年２月８日（土）～９日（日）

募集対象

大津市内在住・在学小学４年生～中学生

応募状況および参加者数

応募者数　３１名　　参加者数　３０名

プログラム

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
２月８日			バス乗車受付		仲間づくり開講式		昼食	そり・雪遊び			オリエンテーション	夕食		キャンプファイヤ	入浴	就寝	

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
２月９日	起床	朝の集い	朝食	スノーバトル			昼食	ふりかえり	バス乗車閉講式	解散							

参加者と保護者の声

〈参加者のアンケートより〉

・新しい友達ややったことのない遊びをしたりしてとても楽しかったです。スノーバトルでどうやったら勝てるかを考えるのも楽しかったです。次は２泊３日や３泊４日があったらいいなと思いました。また葛川に行って新しい友達や思い出、遊びを作ったり知ったりしたいです。

・新しい友達ができて、今回の体験が思い出に残るような体験になったことがうれしく思った。

〈保護者のアンケートより〉

・経験したことをたくさん話してくれました。日頃では、経験できないこと、葛川でしかできないことがあり、とても充実した様子でした。ありがとうございました。

成果と課題

４２名の募集をかけたところ、３１名の応募があった。昨年度の子どもだけの主催研修事業では、抽選をしなければならないくらいだったが、募集定員内であった。キャンプカウンセラーは１３名参加した。ひと班につき、５名の参加者で、班付け２名は手厚く子どもたちをサポートできた。今年度は積雪があり雪を楽しむ活動ができた。キャンプカウンセラーが十分に子どもたちのことを考え活動を立案したことで、参加者も満足な様子だった。また、内服薬持参が多かったため看護師の配置ができたことは、とても心強かった。ただし、事前調査との差異があり、保護者確認が必要になることがあった。変更がある場合の対応について周知しておく必要があると感じた。

日帰りファミリーサマーキャンプ

趣旨

親子で葛川の大自然を思う存分味わう活動を通して、命の大切さ、自然の美しさを感じ、ふるさと大津を愛する気持ち、親子の絆を育む。

実施日

令和６年７月２７日(土)

募集対象

大津市内在住の小・中学生を含む家族

応募状況および参加者数

応募者数　１１６家族　４３０名　　参加者数　８家族　３０名

プログラム

8	9	10	11	12	13	14	15
7月27日		受付	あまごつかみ 火起こし 串けずり		川遊び 丸太切り		解散

参加者の声

・家族で楽しく過ごすことができ、いい思い出になりました。小さい子どももいたので不安でしたが、スタッフの対応もよく、安心して過ごすことができました。また、魚を捕まえるところから、自身で調理の過程も学び、美味しく頂くところまで、とてもいい経験となり勉強になりました。
・休憩できる部屋も個人１世帯に１部屋ずつ用意していただきとてもよかったです。１泊できるものもあれば参加したいです。

成果と課題

今年度もたくさんの応募があり人気のキャンプである。抽選で、１２家族参加予定であったが、直前のキャンセルにより８家族３０名の参加となった。また、キャンプカウンセラーが６名参加し、子どもたちの対応など適宜行い、安全に実施することができた。

命の学習は、今年度より水温管理の観点から、あまごからあゆに変更したが、あゆは元気がよく、参加した家族もあゆの素早さに翻弄されながら満喫されていた。また、味も好評で大変喜ばれていた。しかし、命の学習の説明の際、時間を気にしすぎて、命の学習の趣旨についておさえが弱かったため、楽しみだけで終わられた家族もあった。また、焼きの際、軍手を着用しないままレンガや串を触る保護者が多かったので声をかける場面があった。説明内容を事前に確認すべきであった。

午後の川遊びは例年より水量が多かったが、天候に恵まれ、参加者に楽しんでもらえてよかった。家族同士交流されたりする姿が見られたこともよかった点である。しかし、晴天で気温も高かったことから休憩を取り入れていたが、参加者の中には疲れられている方もおられた。休憩をこまめに取る声掛けなど、状況を見て判断していく必要があった。

ファミリー防災キャンプ

趣旨

夏の葛川で、自然のよさに触れながら防災テクニックを学ぶとともに、家族の絆を深め、防災の意識を高めあう機会とする。

実施日

令和６年７月１３日(土)

募集対象

大津市内在住の小・中学生を含む家族

応募状況および参加者数

応募者数　　１１家族４５名　　参加者数　９家族３４名

プログラム

	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
7月13日			開講式	土のう積み体験	空き缶飯盒 炊飯 湯煎調理	昼食	防火・防災訓練 （協力）大津北消防署		ふりかえり	閉講式

参加者の声

・震災は近い将来自分も体験することになるのではないかと思っており、避難生活を想定したような防災キャンプも体験してみたいと思いました。
・防災について考える機会になり、グッズをそろえたいと思いました。
・いざという時にすぐに行動できる体験となりました。これを機に防災対策をしていきます。
・消防からもしっかりとした教室をしていただきためになりました。

成果と課題

今年度は日帰りで限られた時間の中ではあったが、様々な体験を行うことができた。午前中は、参加された家族が協力して、水害が発生した場合を想定した土のう積み体験を行った。その後は、空き缶と調理で使えるポリエチレンの袋を用いてご飯とカレーを作り、災害時に生かせるよう研修を行った。午後は、大津北消防署協力のもと、消火訓練やロープワーク、毛布で担架体験、電気火災が起こる場面の実験など、大人から子どもまで楽しみながら体験できる研修を行った。また、キャンプカウンセラーの協力もあり、子どもたちも楽しく体験でき参加者の絆を深めることができた。

参加者からは、「防災について考えられてよかった」など良い意見をたくさんいただくことができた。しかし、日帰りで、活動時間にも限りがあったこともあり、内容に限定的であった。参加者からの意見にあったように、今後、大きな災害が起こりえる時代でもあり、避難所生活をしなければならないことも考えられるので、宿泊を通して限られた物資の中で生活を行うという研修を実施していくことも大切であると感じた。

ファミリーウインターキャンプ

主旨

冬の葛川で自然の厳しさや偉大さを感じながら、体を動かす活動を通して、家族のふれあいを深める。

実施予定日

令和７年１月２５日（土）～２６日（日）　１泊２日

募集対象

大津市内在住の小・中学生を含む家族

応募状況および参加者数

応募者数：４４家族　１７９名　　参加者数：１５家族５９名

プログラム

	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
1月25日				開講式	草木染体験	昼食	スプーン・フォーク作り		自由時間		タベの集い	夕食	お箸づくり	入浴 自由時間		消灯

	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
1月26日	起床		清掃	朝食	丸太切り・ウッドバーニング		昼食	ふりかえり	閉講式							

参加者の声

・楽しみにしていたので、家族全員で来ることができてうれしかったです。雪がなかったものの、たくさんのクラフト企画を体験させていただき、大変楽しかったです。
・家族の冬の思い出を作ることが一番の目的でした。皆が学習し、自然にふれながら温かく、楽しむことができました。感謝の気持ちでいっぱいです。親切に接してくださり、ありがとうございました。
・クラフトはとてもよかったです。ただ、雪がなくても、クラフト以外に、外で行う活動があればなお良かったなと思います。天体望遠鏡で星が見られてよかったです。

成果と課題

一昨年度は大雪のため、昨年度は雪不足のため中止となった当キャンプであった。今年度は、積雪がなくても実施する方向で検討し、クラフトを中心の活動を行うこととした。実際、今年度も雪は降らず雪の活動は行うことができなかったが、参加された家族はクラフトを存分に楽しまれていた。今回のクラフトのテーマはランチセット。草木染でランチョンマットを作成し、間伐材を用いてスプーンとフォーク、お箸の食器類を作成した。草木染では家族でどのような模様になるかを想像しながら取り組んでおられた。食器類は木を磨いたり削ったりする作業を家族で分担するなど協力されていた。完成した際に声をあげて喜ぶ子どもの姿が印象的であった。２日目のクラフトは思い出作りをテーマに間伐材の丸太を切り、ウッドバーニングで模様をつけたり、ドリルで穴をあけてペン立てを作っていただいた。子どもたちは、熱ペンを使って楽しいイラストを描いていた。今回雪がなくても実施し、好意的な意見を多数いただくことができた。次年度も積雪の有無にかかわらず実施をしていきたい。今回の意見を参考に、外での活動を工夫し、さらに良いキャンプを実施していきたい。

わくわくホリデー（草木染め）

趣旨

・親子で葛川の大自然を思う存分味わう活動を通して、自然を慈しみ、大切にする心を育てるとともに、ふるさと大津を愛する気持ち、家族の絆を育む。
・自然の素晴らしさや色の変化の不思議を体感すると共に、互いを思いやるやさしい心を養う。

実施日

令和６年１０月５日（土）

募集対象

大津市内在住の方

応募状況および参加者数

参加者数　　１０家族　２６名

プログラム

	8	9	10	11	12	13	14	15
１０月５日			受付	草木染①	昼食	草木染②		解散

参加者の声

・初めて草木染をしました。思っていたより簡単にできて、世界に１つだけの作品ができてよかったです。他の草でもやってみたいです。
・木や葉など植物を集めるところから体験したかったです。みなさんがとても親切で楽しい時間を過ごせました。今後もいろんな体験を申し込みたいと思います。

成果と課題

昨年度も好評だった本事業である。今年度は、葛川少年自然の家のシンボルツリーであるカツラの葉を使い、午前はミョウバン媒染、午後は灰汁媒染で色付けを行った。また、午前中は模様付けに重点を置き、午後からは煮出しから体験してもらうようにした。

模様付けは、午前午後とも、ビー玉、小石、割り箸、輪ゴムを使った。実際にカツラの葉から煮出した染液に布を浸し、媒染液に浸したとき、種類により色味が違うことに不思議さを感じておられた。また、染色後、布を開いた際参加者から歓声が上がったり、家族同士で模様を見せ合って交流されたりしている姿が見られた。

今回、講師として地域で草木染を行っている方にお願いし、草木染の歴史や詳しい技法などについてお話ししていただいた。また、ボランティアも２名来ていただきスムーズに進行することができた。

わくわくホリデー（杉アロマ）

主旨

葛川の大自然を思う存分味わう活動を通して、自然を慈しみ、大切にする心を育てるとともに、ふるさと大津を愛する気持ちを育む。

実施予定日

令和６年１２月７日（土）

募集対象

大津市内在住の方

応募状況および参加者数

応募者数　　２６名　　参加者数　２０名

プログラム

8	9	10	11	12	13	14	15
12月7日		受付	杉蒸留体験	昼食	ハンドクリーム作り		解散

参加者の声

・今日は貴重な体験をさせていただきありがとうございました。アロマの精油が採れるところを実際に見れてよかったです。私も精油のすばらしさや森との関わり方を地域の方々に広げられたらいいと思っています。

成果と課題

応募人数に対して２６名の申し込みがあった。当日までにキャンセルがあり２０名の参加となった。今回は、葛の雫さん３名に講師としてきていただき、午前中には杉の蒸留のしくみやオイルの抽出を見学してもらった。また、午後からは桧の蒸留のしくみとオイルの抽出を見学してもらい、杉と桧の違いを比較することができた。大人も子どもの蒸留装置の仕組みには興味を持たれている方が多く、より多くの方に知ってもらいたい。また、小さい子どもたちには、みつろうが溶けていく様子や、固まっていく工程を見てもらった。物質の不思議について興味・関心につながっていくことで、子どもの学びにしたい。大人同士や家族での参加があり、大人向けだけでなく子どもにもやってもらえるように工夫した。参加者にとって、「来てよかった」「また、来たい」と思ってもらえるように対応していきたい。それが後々、子どもたちへの学びにつながっていくと考える。今回の内容は、時間にゆとりがありゆったり活動できたが、企画立案としてもう少し工夫できるところは次回に修正していけたらと思う。

自然の家ボランティア研修会

趣旨

令和６年度自然の家ボランティアの顔合わせをし、葛川の自然を活かしたプログラム等を通して交流を図るとともに、ボランティアに対し自然の家の事業・活動を報告し、自然の家への理解を深める。

実施日

令和６年５月１８日（土）

参加者数

地域ボランティア１名・青少年カウンセラー　７名

参加者の声

・前年度や今年度の活動内容を聞くことができた。
・地域ボランティアの方と協力して行うことができた。

プログラム

	8	9		10	11	12
5月18日			受付 開講式	事業説明 事業報告	交流会	閉講式 解散

成果と課題

地域ボランティアさんと青少年カウンセラー会と自然の家の交流を兼ねているので、少ない参加状況であるが、実施できたことがよかった。この研修会では、昨年度の取り組みや事業計画についての説明を行い、今年度の計画についても紹介した。

交流会では、新プログラムの「丸太切り・メモスタンド」を体験した。キャンプカウンセラーとボランティアの方でグループをつくり、丸太をのこぎりで切って、ドリルで穴を明け、クリップを差し込み完成である。参加者同士で教えあう様子が見られ、要領を掴めるとスムーズに刃物を扱うことができていた。

年々、感じることとして、地域ボランティアさんの高齢化に伴い、参加者の減少が顕著に表れている。葛川のコミュニティを生かしつつ、年齢層を広げ、交流できる幅を増やしていきたい。

カウンセラー研修会

趣旨

当所周辺の自然環境を生かした野外活動や宿泊体験を通して、野外活動に必要な基礎知識や技術を習得し、ボランティアリーダーとして活動する資質を育む。

実施日

令和6年6月２２～２３日（土・日）　１０月１２～１３日（土・日）　令和7年1月１８・～９日（土・日）

対象

青少年カウンセラー会　会員

プログラム

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
１日目					入所式	オリエンテーション・演習・実習①	昼食	実習②			オリエンテーション	夕食		実習③	入浴	就寝	

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
２日目	起床	朝の集い	朝食	実習④			昼食	ふりかえり	退所式								

参加者の声

・カウ研では、本番の事を思って想定して行っておくべきだった。
・子どもたちがいる前提でやる研修会であり、いろいろな性格の子たちが来るからどこまで予測しておけばいいのか迷った。

成果と課題

キャンプカウンセラーの人数が少なくなっている中、今年度も新たに高校生が数名加入し、キャンプカウンセラー経験が長い大学生が中心となって月１回自主研修会を行ってきた。キャンプカウンセラーの役割は「キャンプを通して子ども達へ教育を行う」ことであるため、キャンプカウンセラーの育成は大学生だけに任せるのではなく、本所で行う研修会において、教員身分である所員が中心となり教育的視点を取り入れるよう努めた。

主催研修事業では、キャンプカウンセラーと参加する子どもたちとの関わりが大切である。主催研修事業前の研修会ではキャンプカウンセラーとしての心構えだけでなく、危険予測や安全指導についても研修を行った。普段できないキャンプファイヤーなどの野外レクや野外炊事、川遊びの現地下見をすることで研修を充実させることができた。研修を重ねるごとにキャンプカウンセラーの成長が大きく見られた１年間であった。今後、大学を卒業するキャンプカウンセラーも多くいることから、キャンプカウンセラーの負担を考慮しながら所員が手助けしていく必要がある。

教職員研修

趣旨

野外活動の意義と安全管理意識を持たせるとともに、本所の活動プログラム体験することで、野外教育活動についての知識と技能を身につける。

実施日

令和６年７月３１日(水)

対象および参加者数

大津市立小中学校及び幼稚園新規採用教員　　幼７名、小３２名、中２０名　計５９名
指導者･･･所員３名、教育センター職員５名

会場

葛川少年自然の家

プログラム

	10	11	12	13	14	15	16
7月31日	入所式	講義	野外活動研修① 命の学習について	昼食 休憩	課外活動研修② ウォークラリー	振り返り	退所式

※講義内容
野外活動の充実に向けたカリキュラムマネジメントについて
野外活動における危険と熱中症予防について

成果と課題

今年度の研修は、１日、葛川少年自然の家で実施した。学校ではＧＩＧＡスクール構想により子ども一人ひとりにタブレットが配布され、ＩＣＴ機器が欠かせない現状である。しかし、学校園の教育の中で、机上の知識だけではなく五感を使った自然体験活動を通して、子ども自身が感じ、考え、解決する力をつけることが大切である。このことをふまえ、講義では、自然体験活動を意図的に教育課程に組み込む必要があるということをおさえた。また、教員の中には、自然体験活動の経験が少ないため、自然体験活動において、想定しておかなければならないこと（落石や動植物による危険、参加者の状態を把握し熱中症予防や事故防止等）等、考える時間を取りながら研修を深めた。

野外活動研修では、初任者が引率者、参加者に分かれて、ロールプレイ形式で行った。引率者の役割の教員は事前に活動プログラムについて調べ、参加者役の初任者に活動のねらいや安全面、方法について説明を行った。活動後には、振り返りを行い、今後の指導に生かせるようにした。また、所員から、葛川での自然体験活動中の子どもたちの姿や発言を拾い上げ、今後の学校生活に生かしていくことが大切であることを伝えた。

初任者の感想からも実際に経験することで、子どもと教師の両方の視点を持つことができたこと、子どもたちに何を学んでほしいかという明確な「ねらい」が必要であることなど良い感想をたくさんもらうことができた。

所員研修（救命救急・防火・防災・安全・新プログラム）

趣旨

入所者へ安全及び新しいプログラムを推進するために次の研修を実施した。①AED を使用した心肺蘇生及び救急搬送までの流れ等の普通救命救急、地震・火災を想定しての避難訓練　②野外活動場所安全点検　③新しいプログラム導入における教材研究いずれも対応力を高めるため、体験的な研修とした。

実施日

＜救命救急・避難訓練＞　令和６年　４月１０日(水)
令和６年１０月１１日(金)
＜野外活動安全研修＞　令和６年　４月～令和７年２月随時
＜新プログラム作成＞　令和６年　５月～令和７年２月随時

対象

葛川少年自然の家所員

成果と課題

① 救急救命研修では大津北消防署に訓練用具を借用し、AED を使用した心肺蘇生を中心に研修した。特に AED の使用法を全員が研修できた意義は大きかった。避難訓練では、地震や火災発生など緊急時の避難誘導についての役割を確認できた。また、所属員の勤務の関係上、所員全員がいない場合に備え、機械操作盤の使用法についても確認した。

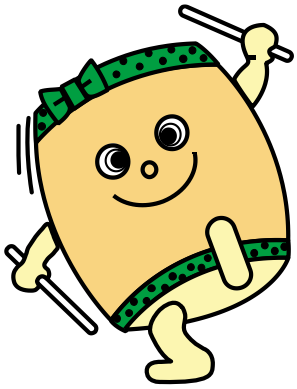
② 野外活動安全研修では、利用団体が安全にプログラムを実施できるよう、実際にプログラムを試すだけでなく、利用団体の実際の活動から安全について所員で研修を行った。特に、火を扱う活動については事故防止のため、かまどのおき方を変更し、実際に活動のシュミレーションを行った。大津北消防署より指導もいただき、より安全に実施できるようにした。また、ハイキング、沢登り、スノーシュー研修を季節に応じて実施した。ハイキングと沢登りについては、現在、実施が難しいプログラムではあるが、所員のスキル向上ならびに、今後安全が確保でき再開するときに備え行った。ハイキング道や沢登りの活動場所の荒廃がひどく、再開のめどは立たないと感じたが、他の活動の危機管理の視点について生かせると感じた。また、スノーシューに関しては今年度、積雪量も多く、活動時に配慮すべきことなど、所員間で研修することができた。

③ 主催研修事業に向け、それぞれのプログラムの精度を上げるため、所員で研修を行った。草木染、杉アロマ抽出体験、フォーク作り、新しいかまどを使った活動など、それぞれについて精度があがるよう工夫したり研究を重ね安全に活動できるようにした。プログラムとして確立できるよう、今後も所員で研修を重ね、より良いものを作っていく予定である。

救急救命研修

野外活動安全研修

やまびこ
瀬の音
こどもの里



〒520-0475　滋賀県大津市葛川坊村町 243
ＴＥＬ　077-599-2102(21 世紀のおおつ)
ＦＡＸ　077-599-8003
E-MAIL　otsu2460@city.otsu.lg.jp